



日本聖書神学校 学 報

Japan Biblical Theological Seminary

〒161-0033 東京都新宿区下落合 3-14-16・☎03-3951-1101～2・Email: jbts@jbts.ac.jp

2026年4月10日

第181号

発行人 神保 望

【後援会献金口座】

郵便振替:

00110-3-6435

加入者名:

学校法人聖経学園

日本聖書神学校

今号の内容

巻頭言	1
第78回卒業生	2
2026年度新入生	2
教職員の異動	2
総務部長・教務部長就任挨拶	3
学事報告・個人消息	4

【巻頭言】

1946年を想像する

教授 柳下明子



神学校の創立80周年を迎えます。1946年に創立された神学校の歩みは日本の敗戦後の、そして第二次世界大戦後の世界の歩みと共に進んできたものでもあります。

『ケストナーの終戦日記』（駸々堂出版、1985年）はドイツの著述家エーリヒ・ケストナーの作品です。『二人のロッチェ』や『エーミールと探偵たち』、『飛ぶ教室』などの児童文学や、大人のための戯曲や詩で知られるドイツの作家エーリヒ・ケストナーはナチス政権下で「好ましからざる作家」という評価のもと、1933年の政権成立時に著作は焚書され著作活動に制限を受けます。この時代に多くの思想家や著述家はドイツを離れますが、ケストナーはドイツ国内にとどまることを選びます。憲兵からしばしば呼び出しを受け監視のもとに置かれながらも、ケストナーは戦時下のドイツ領内にとどまり、社会の動向を観察し、記録しています。その記録の一部、1945年のベルリン陥落からドイツ降伏までの日々の記録が『終戦日記』としてまとめられています。敗戦が濃厚になると、人は変節します。ナチスの支持者は態度を翻し、戦争中に熱心な黨員であったある者は私的な制裁を受け、またある者は自ら命を絶ち、進駐軍の侵攻におびえます。戦況の全貌の不明なところで刻々変化する人間のありようのすべてを観察し、克明に記したうえで5月24日の日記にケストナーは記しています。「戦争中は平和について語るのは難しいことではなかった。そのころは、復讐心がスローガンをトランペットで吹き鳴らしていた。今やトランペットはもう口出ししてはならぬ…復讐心は克服されねばならないだろう。さもないと、勝利の騒々しいファンファーレが響く中で、平和は失われてしまう。…罪と罰というのは古典的な概念といえよう。しかし20世紀は決して古典的な時代ではない。…理性は人に寛容を強いる。寛容は不公平である。人はどう決心するだろうか。不公平な平和か、それとも公平な混沌か。この正真正銘のジレンマは、戦争がナンセンスであることを証明している。しかし、他のいかなる方法でもって、次のヒ

トラーを制御することができるだろうか。国際連盟は今度こそもっとうまくいかなければならない。さもなければ？さもなければ・・・」（前掲書171－172頁）

寛容を人類が学ばなければ本当の平和は打ち立てられないのであり、話し合いによって紛争と対立を乗り越えるシステムを機能させなくてはならないこと、そうでなければ、第二第三のヒトラーが誕生するであろうことをケストナーは予感しています。

けれどもその理性が絶句させられるような経験をケストナーはすることになります。それはケストナーが、強制収容所で一命をとりとめ救出された人の経験を聞かされたことでした。強制収容所で行われていた残虐行為を知らされ、それを克明に記録したところで日記は閉じられます。ケストナーの終戦日記は1945年8月2日で終わっています。

そして15年の沈黙の後、1960年にケストナーは「付記」を記しています。それは日本の降伏を導いたとされる原子爆弾投下に関わった操縦士はその行為の自責へのゆえに心を病んだこと、そしてその事実は誰にも顧みられないということ伝えるものでした。そのことを記した後、ケストナーは日記を「1945年を忘れるな」という言葉で結んでいます。

ケストナーは理性が沈黙させられるような暴力を知り、なお平和のための寛容を選び取ることを訴えました。そしてその寛容に立つためにはスタート地点を心に刻む事しかないのだと結論します。

戦後80年を経て紛争と対立を話し合いで解決するシステムを大国の指導者たちが平然とないがしろにし、世界中に「次のヒトラー」が生まれようとしています。

この世界の中で平和を創り出すためには、神学校はそもそもどこに立って、どのように社会に仕えようとしてきたのか、そのスタートに何が据えられていたのかを知らなくてはなりません。80年の歩みを検証し81年から先を見据えたいと思います。

2025年度 第78回卒業生

①卒業論文 ②卒業時の所属教会 ③実習教会 ④赴任教会

内田弥生 うちだ やよい



- ①カンバーランド長老教会 1984年版信仰告白の特質と意義—カンバーランド長老教会が大切にしているもの—
- ②カンバーランド長老キリスト教会あさひ教会
- ③カンバーランド長老キリスト教会高座教会
- ④カンバーランド長老キリスト教会あさひ教会

海野博 うんの ひろし



- ①「テモテへの手紙 I 2章8～15節」は現代において福音として語れるのか？
- ②日本基督教団東戸塚教会
- ③日本基督教団東戸塚教会
- ④日本基督教団よきサマリア人伝道所

鷺谷義和 さぎたに よしかず



- ①神は何故サタンにヨブを打つことを許可したのか？
- ②日本基督教団深沢教会
- ③日本基督教団深沢教会・まぶね教会
- ④日本基督教団深沢教会



2026年度 新入生一覧

【正科生】

- | | |
|----------|--------------------|
| 1. 今田裕之 | 日本基督教団深川教会 |
| 2. 位田有香 | 日本長老教会北四日市キリスト教会 |
| 3. 木村 翠 | 日本基督教団深川教会 |
| 4. 木村晋治 | 日本バプテスト連盟中野バプテスト教会 |
| 5. 中野高宏 | 日本基督教団駒場エデン教会 |
| 6. 林 信一 | 日本基督教団横浜港南台教会 |
| 7. 渡邊孝太郎 | 日本基督教団三崎町教会 |

【聴講生】

- | | |
|----------|-------------------|
| 1. 五十嵐直美 | 日本ホーリネス教団由木キリスト教会 |
| 2. 岩井信暁 | 日本基督教団滝野川教会 |
| 3. 大隈道雄 | 日本基督教団信濃町教会 |
| 4. 鴨下顕彦 | 久留米キリスト教会 |
| 5. 栗原隆幸 | 日本キリスト教会鶴見教会 |
| 6. 松脇達朗 | 日本キリスト教会蒲田御園教会 |
| 7. 美濃祐紀子 | 日本基督教団清水教会 |

【基礎科生】

- | | |
|-----------|--------------|
| 1. 井上美代子 | 日本基督教団東金教会 |
| 2. 小笠原敦輔 | 日本基督教団なか伝道所 |
| 3. 喜田川ルツ子 | 日本ナザレン教団横浜教会 |
| 4. 佐藤恵理子 | 日本基督教団三鷹教会 |
| 5. 山本ゆかり | 日本基督教団目白町教会 |

教職員の異動

就 任

《教 員》

水谷 勤 (教務部長) 2026年4月1日
宮城 献 (講師) 2026年4月1日

《職 員》

祖父江健一 (総務部長) 2026年4月1日
入谷絢子 (教務部職員) 2026年1月1日

退 任

《教 員》

荒瀬牧彦 (教務部長代行) 2026年3月31日

《職 員》

松脇達朗 (総務部長) 2026年3月31日
木村晋治 (教務部職員) 2026年3月31日



総務部長就任挨拶

総務部長 祖父江健一

この4月より総務部にて奉仕をさせていただきます。祖父江健一と申します。これまで

で青山学院にて42年間、女子学院にて3年間、キリスト教学校の事務方として歩んでまいりました。「三度目の人生のスタート地点」として、主の器を育む聖なる学び舎にお招きいただいた不思議な導きに、深い畏れと感謝を抱いております。

1997年、私は日本キリスト改革派新座志木教会で洗礼を受けましたが、直近の4年間は定住伝道者が不在という「静かな試練」の時を過ごしてまいりました。一教会員として、また長老として群れを守る役割の中で、牧者を待ち望む祈りの切実さを身をもって体験いたしました。

しかしこの春、主の豊かな摂理により、待ち望んでいた若い女性教師候補者をお迎えすることとなりました。羊飼いを迎える群れの喜びを間近にする者として、私は今、改めて神学校の重要性を痛感しております。神学校で学び、遣わされていくお一人おひとりが、将来どこかの教会で「待ち望まれていた喜び」として迎えられるよう、その歩みを支えることが私の新たな使命であると確信しております。

今回、改革派教会に所属する私が日本基督教団の神学校に仕えることには、大きな神学的意味があると感じております。それぞれの伝統や神学的立場を尊重しつつ、キリストにあって一つとなる「エキュメニカル(教会協力)」の精神こそ、今の時代に求められている証しではないでしょうか。改革派が大切に「神の絶対主権」と、教団

が育んできた多様な豊かさが響き合うなかで、互いに学び、仕え合いたいと願っております。

総務の務めは、単なる事務作業ではありません。それは「キリストの体」なる教会を建てるための、目に見えない土台を整える「聖なる奉仕(ディアコニア)」です。長年の事務方としての経験、そして現場の教会の痛みを分かち合ってきた視点を生かし、献身者たちが学びに専念できる環境作りに全力を尽くしてまいります。

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。」

この御言葉を胸に、主の平和のうちに歩ませていただきます。どうぞお祈りにお覚えください。



教務部長就任挨拶

教務部長 水谷 勤

新年度より教務部長の任を預かることになりました水谷勤と申します。この春、主の

呼びかけを真剣に受け止めて入学した神学生たちを迎え、託された大切な働きに身の引き締まる思いであります。ちょうど神学校の入り口にあるアーモンドの木が開花したのを眺め、私たちの働きを主が見ておられるのだと御言葉を思い、校舎に向かいます。

「働き、祈り、学ぶ、夜間の神学校」での4年間の神学校生活は、神学生一人一人にとって主の招きが自らの内により確かなものとされていく大切な期間であると思います。これまでの歴代の教務部長や代行を担われた先生方の大切な働きを引き継ぎ、神学生たちの学びを支えていく働きができればと

願っています。そして主から与えられた召命が確かにされていく歩みを、この職務を通して共に歩みたいと願っています。

日本聖書神学校の学風の一つは、「共に」を大切に神学校であるとは、きっと多くの在校生、卒業生、また神学校を支えてくださる教会の方々が願ってくださることではないでしょうか。かつて私もこの校舎で学び、多くの先生方との良き出会いを通して感化を受けました。また卒業後、出会った同窓の先生方や神学生たちにも同じ雰囲気を受け継がれているとふと思いました。夜学の学びの苦労をそれぞれが経験し、それによりお互いが共に繋がりが得ることもあると思います。また、年齢構成が多様であるという特徴が教会的な場を生み出しているのかもしれませんが。そして本質的には、主の前に

共にあるという共同体自体に、主が豊かに働いてくださるという主の教会の真理があると信じます。多くの課題に向き合う時、そのことに信頼し、委ねていくことに絶えず立ち帰りたいと願っています。

私たちの生きる世界は目まぐるしく移り変わりつつあります。国々の支配と権力に満ちた暴力が、人々の限りなく尊い命と生活と土地を破壊し続ける世。そのなかであって、一人一人が御心を現すために教会に遣わされていくことを思う時、主が私たちの神学校の働きを無くしてはならぬものとして、熱き思いをもって見ておられる(エレミヤ1:11、12)ことを心に留めます。多くの教会の祈りに覚えられていることに感謝し、さらなる祈りのお支えをどうかよろしく願い申し上げます。

Diary 学事報告

2025年9月～2026年3月

- 9月10日 後援会通信(79号)発行
- 9月12日 教授会(第6回)
- 9月12日 後期始業礼拝、説教:神保望校長
- 9月12日 夏期伝道実習報告会
- 9月15日 学報(179号)発行
- 9月16日 後期授業開始
- 9月16日 カリキュラム対話集会
- 9月26日 理事会(第308回)
- 9月29日 ハラスメント防止講座、講師:大杉至氏(日本同盟基督教団伊那聖書教会)
- 10月9日 神学校を覚えて祈る集い、参加者51名
- 10月10日 教授会(第6回)
- 10月12日 神学校日
- 10月20日 全校修養会主題の特別講演「教会の生き方 北海道で考えてきたこと」講師:久世そらち氏
- 10月20日 後援会役員会
- 10月20日 図書館運用委員会
- 10月24日 教授会(第7回)
- 10月24～25日 全校修養会 テーマ「教

- 会」講師:朝岡勝氏(日本同盟基督教団多磨教会主任牧師)、参加者21名
- 10月30日 理事会(第309回)
- 11月7日 教授会(第8回)
- 11月7日 11月入学試験(合格者:正科生2名)
- 11月10日 学生自治会ハラスメント学習会
- 11月10～14日 授業体験週間、参加者4名
- 11月26日 理事会(第310回)
- 11月26日 評議員会(第232回)
- 12月1日 キリスト教研究所講演会「傷ついた世界に仕える教会」講師:岡田仁氏
- 12月11日 学生自治会ホームルーム
- 12月12日 教授会(第9回)
- 12月12日 クリスマス礼拝、説教:日下部遣志氏(日本基督教団九州教区総会議長・川内教会牧師)、参加者80名
- 12月15日 学報(180号)発行
- 1月19日 現場実習(総合演習Ⅱ)報告会
- 1月28日 後期補講日
- 1月29～30日 後期試験日
- 1月30日 教授会(第10回)
- 1月30日 卒業論文講評会

- 2月2日 卒業論文発表会
- 2月2日 後援会役員会
- 2月2日 献身志願者の集い準備会
- 2月3日 理事会(第311回)
- 2月3日 4年生と同窓会役員との懇談会
- 2月9日 図書館運用委員会
- 2月17日 学生自治会学術講演会、講師:島蘭進氏
- 2月20日 2月入学試験(合格者:正科生2名、基礎科生5名)
- 2月20日 教授会(第11回)
- 3月2日 学生自治会総会
- 3月6日 教授会(第12回)
- 3月6日 卒業礼拝、説教:菅野百合子氏(大島元村教会牧師37期卒業生)、卒業生3名、参加者70名
- 3月9日 2年生と教授会との面談
- 3月9日 教授会(第13回)
- 3月9日 3月入学試験(合格者:正科生3名、聴講生7名)
- 3月11日 理事会(第312回)
- 3月16日 献身志願者の集い準備会
- 3月16日 後援会役員会
- 3月16日 新入生オリエンテーション
- 3月26日 評議員会(第233回)

個人消息

■ 神保望校長

- 9月16日 クリスマス新聞原稿執筆
- 9月20日 池袋朝祷会で奨励
- 9月28日 飯能教会牧師就任式に出席(祝辞)
- 10月12日 野方町教会神学校日礼拝で説教
- 10月19日 土気あすみが丘教会伝道礼拝で説教
- 10月31日 日本宣教会(JMS)ニューズレター原稿執筆
- 11月5日 メーヤー宣教師ご家族記念墓前礼拝に出席(日本基督教団清水ヶ丘教会)
- 11月9日 にじのいえ信愛荘礼拝で説教
- 11月16日 日立教会るつ記記念礼拝で説教
- 11月30日 ベテル清水教会礼拝で説教
- 12月1日 日本聖書神学校同窓会関西支部会に出席
- 2月8日 にじのいえ信愛荘礼拝で説教
- 3月2日・3日 日本基督教団宣教方策会議に出席
- 3月10日 NCC 教育部・エキュメニズム研修会に出席(派遣礼拝で説教)
- 3月22日 カンバーランド長老キリスト教会伝道師就任式に出席(祝辞)
- 3月29日 池袋西教会礼拝で説教
- 教授として授業を担当し、校長として理事会、評議員会、教授会、校務会、人事委員会、図書館運用委員会、後援会役員会、献身志願者準備委員会に出席・その他適宜人事相談・学生面談を担当して教務執行

■ 荒瀬牧彦 教授/教務部長代行

- 10月13日 関東教区新潟地区教会音楽

講習会 於東中通教会

- 10月19日 松本教会礼拝・修養会
- 10月28日 東京神学大学全学修養会
- 11月8日 日本賛美歌学会大会パネル討論 於聖公会川口基督教会
- 11月15日 東京教区東支区伝道セミナー 於番町教会
- 11月22日 日本実践神学会発題
- 1月6日 神奈川教区常置委員会「カンバーランド長老(CPC)の教職制度」
- 1月18日 CPC 高座教会賛美歌の学び
- 1月31日 CPC 高座教会長老研修会
- 2月10日 賛美歌工房 於目白聖公会
- 2月27日(福) ナオミの会評議員会
- 3月5日 沖縄宣教研究所・富坂キリスト教センター共同研修準備会議
- 3月16～19日 CPC 沖縄平和スタディツアーを団長として引率
- CPC 田園教会牧師、CPC 中会運営委員・神学社会委員長・アジア宣教委員、JBTS 教務部長代行・理事、日本賛美歌学会運営委員の働き
- 執筆:『信徒の友』2025年11月号

■ 小林祥人 教授

- 10月19日 池袋西教会で説教
- 3月15日 勝田教会で説教
- その他、取手伝道所と取手幼稚園での執務
- 人事委員としての執務

■ 菅原裕治 教授

- 日本聖公会管区共通聖職試験委員会委員長を継続(2025年秋期試験、2026年春期試験を監修)
- 日本聖公会東京教区聖職試験委員会委員長を継続(2025年度説教試験・司祭を監修)
- 東京聖三一教会牧師としての執務執行
- 図書館長、評議員としての執務

■ 細井茂徳 教授

- 10月27日 青山学院大学礼拝説教(青山キャンパス)
- 2月24日 上星川幼稚園卒園記念礼拝説教
- 3月17日 上星川幼稚園卒園式出席、祝辞
- 上星川教会牧師としての執務執行
- 全国教師会理事としての執務執行
- 青山学院大学非常勤講師「キリスト教概論Ⅰ」を継続
- 同窓会常任役員としての執務

■ 水谷勤 教授

- 9月14日、11月9日、3月15日 取手伝道所にて礼拝説教
- 10月12日 甲和北伝道所にて礼拝説教
- 2月22日 池袋西教会にて礼拝説教
- キリスト教研究所所長としての執務

■ 柳下明子 教授

- 9月17日、12月3日 東京女子大学チャペル担当
- 10月15日 東支区伝道部委員会
- 10月27日、3月23日 恵泉女学園評議員会出席
- 11月11日、1月12日 東京教区東支区常任委員会出席
- 1月18日 東洋英和女学院中学部・高等部礼拝担当
- 1月25日 東洋英和女学院小学部全校礼拝担当
- 3月10日 東京教区東支区総会出席
- 東京女子大学キリスト教学入門Ⅱ担当
- 聖公会神学院キリスト教史入門Ⅱ担当
- 日本基督教団番町教会主任担任教師としての執務
- 日本聖書神学校評議員、寮監としての執務